

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動年度報告書)

教務委員会

宮上 多加子

1. 教務委員会の活動

教務委員会の役割は以下のものである。

- (1) 教育課程の構成，学科目の種類，編成及び履修方法にかかる調整，企画立案，運営及び実施に関すること。
- (2) 学生の転入学，編入学，転学部，転学科，休学，復学，退学に関すること
- (3) 試験及び卒業に関すること
- (4) 他大学との単位互換に関すること
- (5) その他社会福祉学部の教育課程に関すること

2. 2008年度の経過報告

学部教務委員会は、上記事項について検討するため、平成20年4月から平成21年2月までに、合計9回の会議を開催した。

(1) 指定科目改正に伴う学部カリキュラムの再編

社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する指定科目が改正されたことに伴い、学部教務委員会と学部実習員会に属する教員7名で学部新カリキュラム検討委員会を組織し、平成21年度以降の学部専門教育カリキュラム(新カリ)について検討を行った。4月から9月にかけて合計6回の委員会を開催し、新カリ(案)を作成した。新カリは従来のカリキュラムを変更して枠組み全体を再構成し、「学部基本科目」23科目、「相談援助展開科目」6科目、「福祉新領域科目」7科目、「特別演習科目」4科目、「福祉研究科目」9科目、「福祉士指定科目(社会福祉士)」7科目、「福祉士指定科目(精神保健福祉士)」8科目となっている。また、新カリ導入に伴い、学則および履修規程の変更を行った。

(2) 卒業研究論文に関する三発表会の実施

4回生履修科目の「社会福祉専門演習Ⅱ-a, b」における卒業研究論文作成のため、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成するとともに、例年同様3回の発表会を開催した。卒論構想発表会(5/14、5/21)、卒論中間発表会(10/22)、卒業研究論文発表会(2/12)と、教員や他のゼミ生の前でプレゼンテーションの機会を持つことは、学生の動機づけを高めるだけでなく、多様な意見を交わすことによって卒論の質を向上させると思われる。発表形式は昨年度と同様に、構想発表と最終発表は口頭発表、中間発表はポスター発表とした。学生たちは、それぞれの発表形式に応じて、内容と方法を工夫している点は評価できる。

2008年度の課題として、中間発表会では各ブースに司会や記録の担当がおらず不便があったこと、最終の発表会では「4回生を送る会」が同日に予定されていたため3回生の参加が少なかった点などがある。次年度以降は、発表会の進行等について3回生の役割を加えることを検討する必要がある。

(3) 学生に対するアンケート調査の実施

平成21年度から導入する学部新カリキュラム作成のための検討資料とするため、現行の

委員会活動報告書（教務委員会）

カリキュラムと授業および学生生活に関する学生の意見を集約することを目的に、「2008 授業と学生生活に関するアンケート」を実施した。1 回生から 4 回生全員を対象に、7 月上旬から中旬にかけて配布と回収を行った。回収率は平均 81.3%であった。

共通教育科目については、講義の内容自体よりも、2 キャンパスに起因する移動手段や時間的制約についての課題が多く上がった。専門教育科目の講義内容については満足しているとの回答が多かったが、回生や曜日により 1 日あたりの授業時間がアンバランスであり、改善して欲しいとの要望があった。また、教職科目を置くことについては、「必要がないので廃止」と「希望者がいれば存続」の意見がほぼ同数であった。

(4) その他

従来から懸案事項であった教職（福祉科）の存続と時間割上の配置に関する課題については、平成 20 年 12 月時点で 1 回生学年担当教員を通じて、学生の教職希望に関する状況把握を行い、1 回生には教職免許取得を希望する学生がいないことを確認した。このため、平成 21 年度の社会福祉学部時間割は、教職科目を除いて作成することとした。これにより、時間割作成にあたって制約が少なくなり、曜日による科目数の偏りが緩和された。

3. 今後の課題

新カリキュラムは、平成 21 年度入学生（編入生を含む）から適用されるため、平成 24 年度までは新カリキュラムが旧カリキュラムと入れ替わる形で移行していくことになる。このため、平成 23 年度までは、資格対応科目の中で開講最終年度となる科目があり、学生への履修指導の徹底が必要となる。

さらに、平成 22 年度からは介護福祉士養成課程導入が予定されており、介護福祉士対応科目を含めた学部カリキュラムの再編が必要である。同時に、1 学年の学生数が 70 名に倍増することから、講義形態や時間割の工夫についても次年度の教務委員会の検討課題である。また、精神保健福祉士指定科目の変更についても対応していく必要がある。

入試委員会

西梅 幸治

○平成20年度委員会の体制

2008年度(平成20年度)の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を学部長、全学入試実施委員を西梅・玉里、学部入試委員を川崎・新藤、センター試験部会委員を玉里が担当した。

○本年度入試の概況

今年度実施された入試の結果は、以下の表のとおりである。

選抜方法	募集人員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数	合格倍率 C/D	志願倍率 B/A
①一般推薦	9	22	22	10	10	2.2	2.4
②専門推薦	1	0	0	0	0	—	—
③3年次編入	3	5	5	2	2	2.5	1.7
④前期日程	17	115	109	20	14	5.5	6.8
⑤後期日程	3	107	65	9	6	7.2	35.7
⑥私費留学生	若干人	0	0	0	0	—	—
計	33	249	201	41	32	4.9	7.5

③の小論文の出題一本田由紀編(2007)『若者の労働と生活世界—彼らはどんな現実を生活しているか』大月書店、尾藤廣喜・松崎喜良・吉永純編(2004)『これが生活保護だ—福祉最前線からの検証』高菅出版 からの引用

④の課題図書—柏木恵子(2001)『子どもという価値—少子化時代の女性の心理—』中公新書

○本年度入試の特徴

- ・志願状況について①③④では、前年度に比べ志願者がやや増加した(前年比①1.1倍、③2.5倍、④1.26倍)。⑤については、やや減少したが、30倍以上の高倍率を保持している。
- ・④⑤に関しては、合格者の入学未手続き数が多かった。
- ・3年次編入学試験実施の際、新カリキュラム導入後の入学となるため、面接前の時間を利用して、入学後の国家資格取得に関して説明を行った。
- ・一般選抜要項に、学部アドミッション・ポリシーを掲載することになった。
- ・昨年度は、続編の出版や購入ルートに問題が生じたが、今年度は、出版社への確認を徹底し手続きを明確にするように努力した。

○入試に関わるアンケート結果の特徴

例年通り、志望動機に関するアンケートを、現1回生を対象に行った。その結果では、昨年度と同様、社会福祉関連の資格取得や就職を希望するため、公立大学で私立より学費が安い、センター試験の結果を考慮して、などの理由が志望動機として多く挙げられていた。

委員会活動報告書（入試委員会）

○今後の課題

- ・来年度入試実施に際して、①募集定員の変更、②試験実施形態の変化（3年次編入学試験・専門推薦入学試験の廃止など）について、広報活動への協力、募集要項の修正、入試当日のスムーズな実施に向けた準備（先生方への変更点の周知、面接室確保など）を着実に進めたい。
- ・今年度入試については、特に前期・後期の合格者の入学未手続き数が多かったが、原因分析に努めたい。
- ・課題図書感想文については、例年その提出によって志願の時期がズレ切り間際になっている。来年度は、感想文の提出についても検討したい。
- ・定員増に伴い、県内はもちろん、四国・中国地方の受験生を確保するため、積極的な広報活動を行い、本学部のアドミッション・ポリシーに見合う志願者を獲得しなければならない。そのため入試形態・形式についても、総合的な点検を行いたい。

学生委員会

新藤 こずえ

○活動方針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動を展開している。

○活動内容

I. 相談活動

保健師、心理カウンセラー、医師による相談窓口を定期的に開設した。相談の利用形態、利用時間、申し込み方法については、年度当初のオリエンテーションにて説明した。また、定期の相談日は、掲示板などを利用して学生に周知した。随時、本学部学生委員と池保健室が連携し、本学部生の状況把握と情報共有に努めた。

II. 経済的援助

年度当初のオリエンテーションにて、日本学生支援機構の奨学金の申請方法を説明したほか、学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて情報提供及び手続き支援を行った。

III. 防犯活動

年度当初のオリエンテーション時に犯罪の発生状況及び防犯ベルの貸し出しなど、防犯に係る情報提供を行なった。

IV. 健康の維持、向上

年度当初に健康診断を実施した。また、配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査並びに予防接種、ツベルクリン反応検査、B型肝炎抗体検査並びにワクチン接種について情報提供を行った。その他、随時、学生からの個別相談に応じた。

V. 自主的活動の支援

社会福祉学部棟の掲示板などを活用し、学生生活にかかわる情報やボランティア活動に関する情報を随時、提供した。また、学年間交流会においては、学年担当教員および学部学生委員会が各学年から選出された交流委員を中心として行った企画のサポートを行った。

○成果と課題

学生の福利厚生の上昇に関しては、メンタルヘルス上の課題を抱える学生の増加、学費等経済的支援に係る相談の増加、本学部生が巻き込まれる犯罪や事故が起こっており、このことへの組織的な対応が喫緊の課題である。しかしながら、さしあたっては学生との関係づくりや学生に伝わりやすい情報提供・注意喚起を行うことが現実的対応となるであろう。

また、サークル活動や学年間交流会、ボランティア活動等、学生の自主的活動が活発化しており、それらの活動が学生の大学生活をより充実したものにしている。このような学生の主体性をより一層発揮できるような環境づくりが望まれる。

就職委員会

長澤 紀美子

1. 活動内容

1) 全学的取り組み

○わくわくワークの活動の充実化のために、進路支援にかかる4回生へのアンケートを行った（2月～3月）。

○昨年度から「インターンシップ」のオリエンテーションを池でも開催することになり、今年度も社会福祉学部2年生27名がオリエンテーションに参加した。（社会福祉学部では、4回生1名が行政（高知県中央西福祉保健所）でインターンシップを行った。）

2) 学部の取り組み

わくわくワーク池キャンパス担当松木さんや3回生学年担当教員との協力のもとに、以下の活動を行った。

○4回生向け就職ガイダンス

日時	内容	担当	参加者
4月8日(火) 11:50-12:05	就活に関するオリエンテーション	松木さん	35名
5月14日(水) 18:00～19:00	履歴書の書き方ガイダンス	松木さん	35名
5月21日(水) 18:30～20:00	第1回社会福祉学部就職セミナー	卒業生*	39名
7月2日(水) 18:00～19:20	面接の受け方、小論文の書き方、内定後についてガイダンス	松木さん	30名
11月25日(火) 18:00～19:20	第2回社会福祉学部就職セミナー	在校生**	25名

*5/21 講師（卒業生）

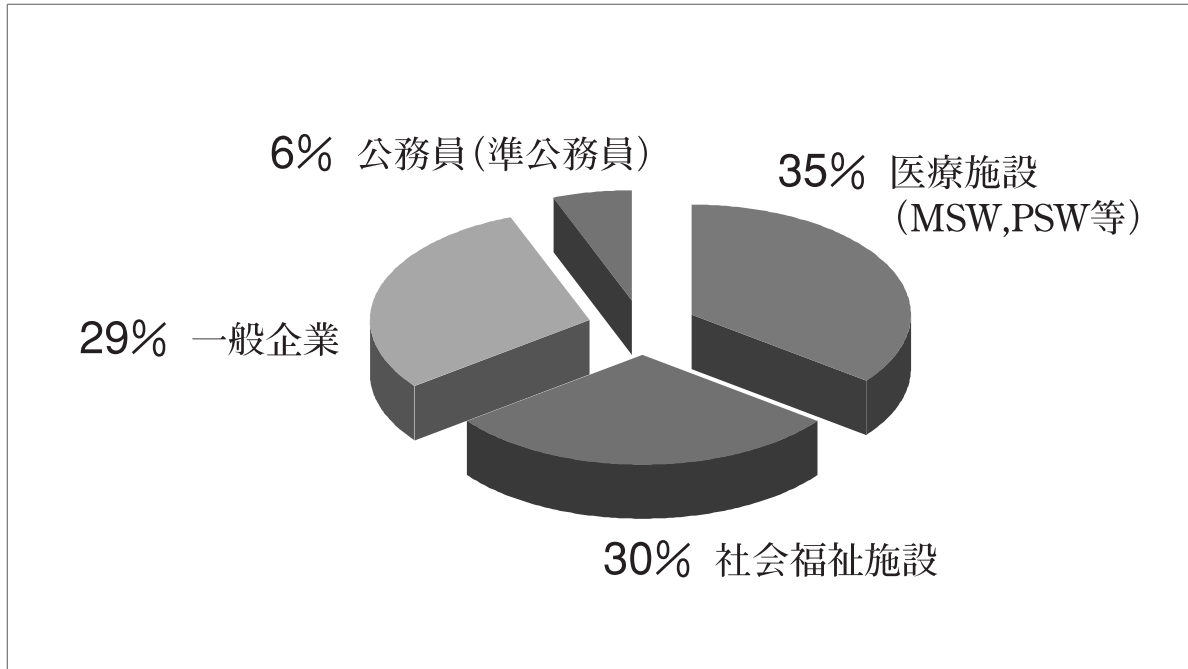
岡田阿子（6期生：高知医療センター）、恒石満美（6期生：南国中央病院通所リハビリ）、岡林真智子（4期生：さんかく広場）、大野なぎさ（5期生：岡豊病院）、井上優子（5期生：同仁病院）

**11/25 講師（4回生内定者）

津田佳奈さん（高知県・行政職）、武石彩乃さん（高知県・福祉職）、沖野典子さん（高知県・県立病院医療ソーシャルワーカー）、名倉望佳乃さん（高知県・少年補導職員）

○その他、3回生向け就職ガイダンス（4月18日：32名参加）、公務員ガイダンス（11月25日：18名参加）就職活動、国試対策、家裁調査官の業務・試験の説明（3月18日：33名参加）、高知医療センター志願者を対象とした見学会（2回）の開催等

2. 成果と課題



○成果：

8期生卒業生38名中、大学・各種学校等への進学3名、就職を希望しなかった者1名を除く34名全員が就職した（臨時採用者を含む）（県内19名、県外15名）。池ワクワク Work!! のきめ細やかな個別の支援の成果であると考えます。

○継続的な課題としては、県外就職希望者の情報収集に対する支援、学生の進路希望の多様化に応じた支援が挙げられる。また、近年、県内での社会福祉専門分野の求人数、特にMSWやPSWが減少している。新しい就職先の開拓も重要な課題となっている。

広報委員会

吉野 由美子





2年間続いた広報プロジェクトが解散し、各学部の広報委員が、オープンキャンパスの企画運営を行う体制が戻ってきた。

そこで、昨年の倍の全学広報委員会が開かれ、オープンキャンパスは、一から企画を行った。予算削減の関係もあり、永国寺と池の間のテレビ会議などは取りやめ、手作り感のあるオープンキャンパスを行った。昨年社会福祉学部独自ではじめて「オープンキャンパスに来られなかった方のための学部説明会」を今年度も引き続き行った。参加人数は少なかったが、じっくりとした話し合いの出来る充実した場になった。

2010年に大学の大改革を控え、各学部とも文部科学省や厚生労働省への申請と認可待ちである事項が多く、2009年の大学案内は、2008年度のをほとんど変えずに増刷して、予算を削減し、その費用で、各学部がそれぞれに改革点を訴えるチラシをつくり、配布するなどの工夫を行った。

定員増を目前にして、大学広報を充実させなければならないという焦りがあっても、来年度の体制が明確にならない中では、あまり思い切ったことが出来ない1年間であった。

2009年度の新しい委員の方たちに、斬新な企画と工夫を期待したい。

Welcome		社会福祉棟		'08 社会福祉学部 オープンキャンパス		
2008年8月1日		社会福祉棟		社会福祉学部のすべてがわかる!		
	共用棟2階 大講義室	玄関	1-4階	101講義室	102講義室	202講義室
10時	学生シンポジウム 「Challenge with Smile」 [10:00-11:15] 学長メッセージ [11:15-11:20] (全体企画)	受付	自由 見学	学生撮影の 学部紹介ビデオを 上映しています	 フリードリンク コーナー	先生にも オススメ
11時				教員による 相談室 [11:00-11:45]		
12時	昼休み		 食堂で学生アトラクション	11:45~12:45		
13時	学部全体 説明会 [12:45-13:50]			学生撮影の 学部紹介ビデオを 上映しています (随時)	大好評	先生にも オススメ
14時				体験授業 [14:15~14:45]	先輩による 相談室 [13:50-15:40]	教員による 相談室 [14:00-15:40]
15時						
16時						

何でも学生、教員に聞いてくださいね。親切にお答えします。
永国寺キャンパスと池キャンパスの間をシャトルバスが運行します。

体
験
授
業

14:15~14:45 体験授業

ソーシャルワークとは —生活のとらえ方を学ぶ—

西内 章 准教授



オープンキャンパスに

参加できなかった方のための

社会福祉学部説明会

社会福祉学部の開催する「高校生のための公開講座」や8月1日の「オープンキャンパス」に参加を希望していたけれども、補習や他の行事と重なってしまったためにどうしても参加できなかった方を対象として、社会福祉学部説明会を開催します。

日時：2008. 9. 7（日） 午後1時から受付開始

場所：高知女子大学池キャンパス 社会福祉学部棟101教室

午後1時30分～2時30分

社会福祉学部ってどんなところ？

入試のこと、教育内容、取得できる資格のこと、卒後の就職のことなど、社会福祉学部を紹介します。

（講師 前山智学部長）

申し込み不要！

直接お越しください！

右のうち、好きなプログラムにご参加ください。

午後2時30分から4時

＊教員による相談室（入試相談も！）

＊学内自由見学

＊学部ビデオ上映会（学生撮影の秘蔵ビデオ一挙公開！）

社会福祉学部棟101教室へどうぞ！

地域創成センター

田中 きよむ

(1) 全学的活動

地域推進会議の委員として委員会に出席し、ニュースレターの編集などや高知女子大学と地域との連携案件について審議した。

(2) 社会福祉学部での活動

○高校生のための公開講座


2008年8月2日(土)と3日(日)の2日間、高校生のための公開講座を開催した。本講座は、高知県の高校生を対象に、社会福祉への理解を深めてもらうと同時に、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学ぶことのできる本学部を認識してもらう機会として、毎年開催している。本年は、高知県下の高等学校と県外からの応募もあり35名の申し込みがあった。5名の講師による幅広い内容の講義を行うとともに、最終時間にはサロンと称し、入試、実習、資格取得など高校生の疑問に教員が答え、参加高校生とぬくもりのある交流を行った。(別紙資料参照)

○社会福祉学部リカレント教育講座

本講座は、1998年4月の社会福祉学部新設とともに、福祉の現場で活躍している社会福祉従事者を対象として開設され、現在に至っている。本年度も、本学教員等によってさまざまな講座が10月から2月までの期間に、6回開講された(のべ講師数6名)。高知県下からさまざまな領域の社会福祉関係者の専門家の応募があり、受講者延べ人数は356名であり、福祉関係者の研修ニーズの高さが示された。(資料参照)


【資料】平成20年度 参加者数実績

講座名		参加者数
高校生のための公開講座		35名
リカレント教育講座		
特別講演	“人間と生活”を介護の視点で見つめる	160名
一般講演A	社会保障制度改革の動向と構造	37名
一般講演B	視覚機能の基礎理論と実際	27名
一般講演C	長期入院から地域での生活	37名
一般講演D	高知県における地域福祉(活動)計画と 住民主体の地域づくり	45名
一般講演E	認知症ケアで大切なこと～高齢者からいただいた心	50名



高校生のための 公開講座 2008

— Welcome to 高知女子大学社会福祉学部 —



高知女子大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です（社会福祉士 75.7%（全国平均 30.6%）、精神保健福祉士合格率 91.3%（全国平均 60.4%）、就職率 97.2%、2007 年度）。

未来のプロフェッショナルを育てる高知女子大学の雰囲気、この夏、体験してみませんか？

2008 年 8 月 2 日（土）・3 日（日）開講！

高知女子大学社会福祉学部 ●池キャンパス●

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

ごあいさつ

社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学べる場としての高知女子大社会福祉学部の存在を認識していただくために、平成12年度より「高校生のための公開講座」を開講してまいりました。今年度は時期をオープンキャンパスの翌日からに変更しておりますが、県内や県外の高校生を対象として開催いたします。

夏休みのひととき、本学部で普段行われているような講義を聴いたり、先生方に直接質問したりできますので、本学部の雰囲気に触れる絶好の機会となります。日ごろから社会福祉に関心を持たれている人だけでなく、たくさんの方に受講していただきたいと思います。

高校生の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

高知女子大学社会福祉学部

学 部 長 前 山 智

高校生のための公開講座の受講申込方法

1. 高校生公開講座受講申込書（別紙）に必要事項をご記入ください（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）。



2. 高校の先生を通じて、FAXか郵送でお申し込みください。参加費は無料です。ただし、弁当（お茶付）が必要な方は、1個につき600円となります。弁当の注文書の有無を受講申込書にご記入ください。

お申込み締切は、7月18日（金）必着

【お申込み先】〒781-0111 高知市池 2751-1 FAX : 088-847-8672

高知女子大学社会福祉学部・高校生公開講座係



3. 使用教室の関係で、参加定員は30名とさせていただきます。受講希望者多数の場合は、学校・学年などを参考に人数を調整させていただくことがありますので、あらかじめご容赦ください（参加定員等の都合で参加いただけない場合、7月25日（金）までにお申込者様宛にご連絡いたします。）。

* 講座は高校2、3年生を対象です

* 原則として2日間連続して受講してください

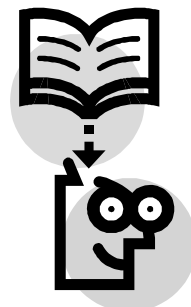
第9回高校生のための公開講座

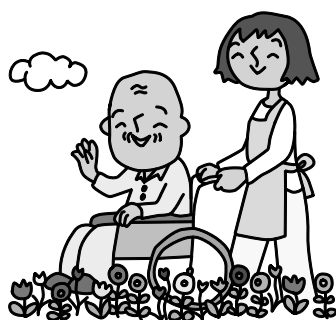
今年度のLINE-UP！

	8月2日（土）	8月3日（日）
1時限	【池キャンパスへのアクセス】バス：大人片道 330 円（土佐電ドリームサービス） はりまや橋 高知医療センター 高知女子大学 ① 9:15 → 9:34 → 9:36 （望海ヶ丘 行） ② 9:20 → 9:50 ※医療センターで降車ください。（後免 行）	
2時限 10:20~11:50	開講式	【講座⑤】 ボランティアとNPO （新藤こずえ助教）
	【講座①】 高知女子大学社会福祉学部の紹介 （前山 智教授）	
昼休み	<u>学生食堂利用可</u>	<u>学生食堂休業</u> ※希望者は弁当を注文してください ※
3時限 12:35~14:05	【講座②】 「社会福祉援助/福祉士がおこなう“相談援助”とは何か？」 （住友 雄資教授）	【講座④】 分かりやすい社会保障の話 （田中きよむ教授）
4時限 14:15~15:45	【講座③】 名探偵コナンと社会福祉学 （吉野由美子准教授）	【サロン】 みんなの疑問に答えて～入試・実習・資格取得のことなど～（複数教員） （司会 吉野 由美子准教授）
		閉講式
5時限	（学部内自由見学）	
	【池キャンパスからのアクセス】バス：大人片道 330 円（土佐電ドリームサービス） 高知女子大学 高知医療センター はりまや橋 ① ※医療センター発 16:00 → 16:22 ② ※医療センター発 17:33 → 18:07 （三里 経由） ③ 17:47 → 17:50 → 18:12	

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。予めご承知おきください。

- ・ 昼食は、8/2(土)は学内の生協食堂・売店がご利用いただけます。8/3(日)は学内の生協食堂・売店が休業しておりますので、各自で昼食をご持参いただくか、お弁当の申込をしてください。（お弁当の申込は引率の先生やご家族の方もご利用できます）
- ・ 8/1(金)は高知女子大学オープンキャンパスが開催されます（事前申込不要）。こちらにもぜひお出かけ下さい。





お申し込みお待ちしております！

高知女子大学社会福祉学部

●池キャンパス●

〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL : 088-847-8700 (代表)

FAX : 088-847-8672 (学部専用)

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

第9回高校生のための公開講座 受講申込書

2008年 月 日

(フリガナ)				
高等学校の 担当教員名				
(フリガナ)				
高等学校名				
高等学校の 所在地 等	〒			
	TEL		FAX	
受講希望者全員の氏名（フリガナ）・学年・利用予定交通手段				
No	お 名 前		学 年	利用予定 交通手段
	(漢 字)	(フリガナ)		
1				
2				
3				
4				
特記事項				
弁当注文書(どちらかに○をしてください)		有 ・ 無		

※本学部がこの申込書によって知り得た個人情報は、「第9回高校生のための公開講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切（必着）：**2008年7月18日(金)**

大学使用 欄			
-----------	--	--	--

高知女子大学社会福祉学部

FAX（学部専用）：088-847-8672

高知女子大学社会福祉学部

リカレント

教育講座

2008年11月より開講

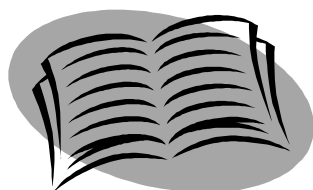


ごあいさつ

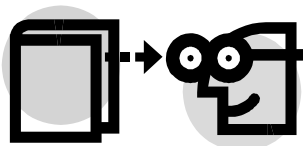
高知女子大学社会福祉学部

学部長 **前山 智**

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。
本学部では、高知県下の保健・医療・福祉従事者を対象とした再教育・再研修に寄与するために、平成10年度より「高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座」を開講しております。今年度も開講できる運びとなりましたので、受講生を募集いたします。
お気軽にご参加頂き、日頃の実践に多少なりともお役立て頂ければ幸いです。



今年のリカレント講座は社会福祉学部の教員が今皆さんに伝えたいメッセージを集めてみました。



高知女子大学社会福祉学部

リカレント教育講座広報担当 **吉野 由美子**

今年のリカレント講座は、企画を進める内に、社会福祉学部の先生方が、地域や実践現場で日々研究活動する中で、今皆さんに話しておかなければならないと思っていることを話す場として、また、どうしても紹介しておきたい優れた実践者の声や当事者の思いを伝える場となりました。

特別講演・一般講演を担当し、またコーディネートした教員一同の思いを沢山の方達に是非聞いていただきたいと思っております。

ご参加を心からお待ちしております。

平成20年度リカレント教育講座

特別講演

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	定員
特別講演	<p>“人間と生活”を介護の視点でみつめる 【講師：金井 一薫(かない ひとえ)】 東京有明医療大学・設立準備室 (元日本社会事業大学・教授) ナイチンゲール看護研究所・主席研究員 KOMI理論研究会・会長</p> <p>本来の介護とは、人間の内に宿っている“生きる力”に焦点を当て、その力に力を貸すことによって、自立した生活を営むことを手助けすることにある。生きる力を支援するということは、具体的には“人間と生活”を介護の視点でみつめ、病気や障害からくる生活の不自由さに対して、生活の処方箋を描いて生活を整えることなのである。</p> <p>本講演では、介護がみつめる“人間と生活”について、ナイチンゲール思想を土台にした新しい視点を提示する。 (講座コーディネーター：宮上 多加子)</p> <p style="text-align: center;">◆◇◆講師プロフィール◆◇◆</p> <p>1987年にナイチンゲール看護研究所を設立。「KOMI理論」は、ナイチンゲールの“看護の原理”を基盤としつつ看護や介護のケアの本質をより明確に提示する実践理論として金井氏が独自に確立したものである。また、この理論を実践するための手法として「KOMI記録システム」を開発した。現在は看護師や介護福祉士の卒業後教育に力を入れ、全国各地において講師を務めるほか、KOMI理論研究会において研修会を主宰している。</p> <p>著書は、『ナイチンゲール看護論・入門』『ケアの原形論』『KOMI理論』『KOMI記録システム』(現代社)ほか多数。</p>	<p>2009年 2/28(土) 13:30～ 15:30 (大講義室)</p>	<p>200名</p>
備考	<p>1) いずれの講座も、関心がある方ならどなたでも参加できます。 2) 複数の講座を併修できます。申込者がいない場合には当該講座は開講しません。 3) 特別講演・一般講演A・C・Dは高知女子大学池キャンパス共用棟2階大講義室で開催します。一般講演B・Eは高知女子大学池キャンパス社会福祉学部棟で開催します。</p>		

平成 20 年度リカレント教育講座

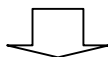
一般講演

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (時間)	定員
一般講演 A	<p>社会保障制度改革の動向と構造 (教授 田中 きよむ)</p> <p>近年、年金、医療、介護、生活保護、障害者福祉、児童福祉などの社会保障各分野の制度改革がおこなわれています。国民の生活を守る社会保障はどこへ向かおうとしているのでしょうか。</p> <p>社会保障制度改革の各分野の最新動向と背景、全体の構造的特質を明らかにし、制度福祉の課題と方向を考えます。</p>	<p>11/8 (土) 13:30~ 15:30 (大講義室)</p>	200名
一般講演 B	<p>視覚機能の基礎理論と実際 (平和眼科 視能訓練士・臨床発達心理士 釣井 ひとみ)</p> <p>視覚は、子供の発達に関わる重要な感覚ですが、視覚障害児や発達障害児の認知発達支援においては、特に、視覚の状態の把握、理解と対応が必要となります。</p> <p>今回の講座では、「視覚機能の基礎理論と実際」というテーマで、視覚のしくみ、見えにくさのいろいろ、みてわかることの困難さの多様性、視やすさを支える設定などについて、重複障害児の様子もビデオで紹介しながら、お話します。 (講座コーディネーター：吉野 由美子)</p>	<p>11/9 (日) 13:30~ 15:30 (教室 101)</p>	30名
一般講演 C	<p>長期入院から地域での生活 (NPO 法人 HANDS 高知 理事 小松啓一)</p> <p>小松啓一さんは、高校生のときに交通事故で全身麻痺となり、以来、人工呼吸器を常時使用しながら地域で暮らしています。</p> <p>事故で身体の機能を失ったときに考えたこと、地域での暮らしを獲得するまでの葛藤、人を支え、人に支えられるなかで手にしたものなど、小松さんがこれまでの人生の旅路を語り、生きることの大切さと「支え・支えられること」の意味を伝えます。 (講座コーディネーター：鈴木 孝典)</p>	<p>11/22 (土) 13:30~ 15:30 (大講義室)</p>	60名

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (時間)	定員
一般講演D	<p>高知県における地域福祉（活動）計画と住民主体の地域づくり (教授 田中 きよむ)</p> <p>2000年制定の社会福祉法によって地域福祉計画が制度化されましたが、その策定自体は義務づけられていません。それだけに、各市町村の行政と住民の自発性、主体性が問われることとなります。その影響もあり、社会福祉協議会等の民間サイドで策定される地域福祉活動計画を実質的な住民参加のもとに策定する動きも出てきています。</p> <p>県内各地で取り組まれている福祉計画づくりの特徴、手法と策定の意義を明らかにしながら、計画の策定、実行、評価のプロセスが、住民による主体的な地域づくりにつながる可能性を展望します。</p>	<p>11/29(土) 13:30~ 15:30 (大講義室)</p>	<p>200名</p>
一般講演E	<p>認知症ケアで大切なこと～高齢者からいただいた心 (上田 冬)</p> <p>社会福祉施設（児童養護・重度心身障がい児者）を経て、14年前から認知症高齢者の生活支援に関わり始める。特別養護老人ホーム、ケアハウスを経て、7年前グループホームの立ち上げから関わる。管理者として認知症ケアの研修を続けながら、実践してきた。現在は退職してフリーの立場で、研修に努めている。</p> <p>高齢者との交わりの中で、直接手にした学びをわかりやすく伝えることで、認知症ケアについて参加者と一緒に考える時間にしたい。</p> <p>(講座コーディネーター：長澤 紀美子)</p>	<p>11/30(日) 13:30~ 15:30 (教室 101)</p>	<p>30名</p>
備考	<p>1) いずれの講座も、関心がある方ならどなたでも参加できます。</p> <p>2) 複数の講座を併修できます。申込者がいない場合には当該講座は開講しません。</p> <p>3) 特別講演・一般講演A・C・Dは高知女子大学池キャンパス共用棟2階大講義室で開催します。一般講演B・Eは高知女子大学池キャンパス社会福祉学部棟で開催します。</p>		

リカレント教育講座の受講申込方法

リカレント教育講座申込書（別紙）に必要事項をご記入ください
（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）



申込書を FAX または郵送でお申し込みください

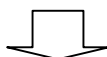
お申込締切は、10月24日（金）必着

【お申込み先】

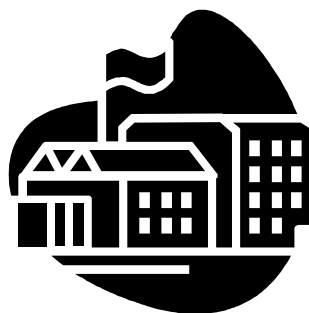
<郵送> 〒781-0111 高知市池 2751-1

高知女子大学社会福祉学部・リカレント教育講座 係

<FAX> 088-847-8672



当日、講座の開催会場へ直接お越しください。



※ 特別講座については、事前お申込以外の当日参加も可能です。

※ すべての講座は参加無料です。



- JR 高知駅から／車で約 20 分
- はりまや橋から／バスで約 20 分

高知女子大学社会福祉学部

Kochi Women's University

● 池キャンパス ●

〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL : 088-847-8700 (代表) FAX:088-847-8672 (学部専用)

<http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

平成 20 年度リカレント教育講座受講申込書

2008年 月 日

(フリガナ)					
氏名					
連絡先 □勤務先 □ご自宅	〒				
	TEL			FAX	
	E-MAIL				
勤務先の 名称					
職 種					
受講を希望する講座 ※ 複数選択（併修）可 ※ 申込者がいない場 合には当該講座は 開講しません。	受講希望講座に○ ↓				
	特別講演		特別講演		
	一般講演		A		
			B		
			C		
			D		
		E			
本学部卒業生の場合記入	高知女子大学社会福祉学部 第 期生				
特記事項					
これまでの受講経験 (どちらかに○)	有		無（今回は初めて）		

※この申込書によって知り得た個人情報は、「平成 20 年度リカレント教育講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切： 2008年10月24日(金)

申込書が足りない場合はコピーしてお使いください

2009(平成21)年 1月 13日

看護部門責任者 様

高知女子大学社会福祉学部
学部長 前山 智
リカレント特別講演コーディネーター 宮上多加子

2008年度リカレント教育講座（特別講演）について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本学の社会福祉教育に格別のご理解とご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

このたびの県立大学改革に伴い、本学社会福祉学部は平成22年度より学生数を倍増し、同時に介護福祉士養成課程を新設する運びとなりました。そこで、今年度の社会福祉学部リカレント講座特別講演は、新しい介護福祉のあり方を皆様とご一緒に考える機会として企画いたしました。社会福祉機関・施設の関係者の方々をはじめ、医療機関の看護・介護職の皆様におかれましても、是非ご参加くださいますようご案内申し上げます。

特別講演 “人間の生活”を介護の視点でみつめる

かない ひとえ
＜講師＞ 金井 一薫 氏

東京有明医療大学・設立準備室
ナイチンゲール看護研究所・主席研究員
KOMI理論研究会・会長

日時：2月28日（土）13：30～15：30

場所：高知女子大学池キャンパス 大講義室

*参加費無料です。

*別紙「受講申込書」にてお申し込みください。申込締切りは、2月20日（金）

高知女子大学社会福祉学部

〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL 088-847-8700（大学代表）

FAX 088-847-8672（学部専用）

リカレント教育講座
特別講演

“人間と生活”を介護の視点でみつめる

【講師：金井^{かない}一薫^{ひとえ}氏】

東京有明医療大学・設立準備室（元日本社会事業大学・教授）

ナイチンゲール看護研究所・主席研究員

.....
● 本来の介護とは、人間の内に宿っている“生きる力”
● に焦点を当て、その力に力を貸すことによって、自立
● した生活を営むことを手助けすることにある。生きる
● 力を支援するということは、具体的には“人間と生活”
● を介護の視点でみつめ、病気や障害からくる生活の不
● 自由さに対して、生活の処方箋を描いて生活を整える
● ことなのである。
.....

2009年2月28日（土）13:30～15:30

（於；大講義室）

高知女子大学社会福祉学部

平成20年度リカレント教育講座特別講演受講申込書

テーマ： “人間と生活” を介護の視点でみつめる 《講師： ^{かない} ^{ひとえ} 金井 一薫 氏》

平成 年 月 日

(フリガナ)			
氏名			
連絡先 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> ご自宅	〒		
	TEL		FAX
	E-MAIL		
勤務先の名称			
職 種			
本学部卒業生の場合記入	高知女子大学社会福祉学部 第 期生		
これまでの受講経験 (どちらかに○)	有 ・ 無 (今回は初めて)		

- ※ この申込書によって知り得た個人情報は、「平成20年度リカレント教育講座」実施の目的以外には利用しません。
 ※ 申込書が足りない場合はコピーしてお使いください

お申込み締切： 平成21年2月20日(金)

【お申込み先】

<郵送> 〒781-0111 高知市池 2751-1
 高知女子大学社会福祉学部・リカレント教育講座 係
 <TEL> 088-847-8700 (代表)
 <FAX> 088-847-8672



高知女子大学社会福祉学部

Kochi Women's University

●池キャンパス●

〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL : 088-847-8700 (代表)

FAX : 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

- JR高知駅から／車で約20分
- はりまや橋から／バスで約20分

実習委員会

西内 章

1. 活動方針

本学部の実習は、社会福祉士指定科目に対応する科目が「社会福祉現場実習Ⅰ」（1単位）「社会福祉現場実習Ⅱ」（機関・3単位）、「社会福祉現場実習Ⅲ」（施設・3単位）、精神保健福祉士指定科目に対応するのが、「精神保健福祉援助実習」（7単位）である。

その内訳は、2年次に履修する「社会福祉現場実習Ⅰ」が事前学習、3年次に履修する「社会福祉現場実習Ⅱ」および「社会福祉現場実習Ⅲ」が配属実習と事後学習となる。

また精神保健福祉援助実習は、3年次に事前学習、4年次に配属実習と事後学習を実施している。

平成20年度の活動方針は、①社会福祉士の新カリキュラムに関する確認申請を行うことと②精神保健福祉士の演習・実習科目の見直し作業を確認しながら、実習科目を体系的に実施することであった。

2. 活動内容

今年度も「社会福祉実習のてびき 2008」をもとに授業（事前学習、配属実習、事後学習）と実習委託先との連絡・調整作業を行った。

社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲの配属実習は、1人あたり24日（180時間）であり、35名が実習を行った。内訳は福祉事務所3名、市町村社会福祉協議会15名、病院（精神科除く）21名、特別養護老人ホーム5名、身体障害者福祉センター2名、児童相談所4名、児童養護施設4名、肢体不自由児施設3名、障害者通所授産施設1名、知的障害者入所更生施設1名、知的障害者通所更生施設5名、障害者支援施設1名、介護老人保健施設1名、軽費老人ホーム1名、デイサービスセンター1名、母子生活支援施設1名であった。

精神保健福祉援助実習の配属実習も、1人あたり24日（180時間）であり、19名が実習を行った。その内訳は、精神科病院16名、病院1名、精神保健福祉センター1名、地域活動支援センター1名、保健所1名、障害福祉サービス事業所4名、精神障害者通所授産施設2名であった。

※なお、上述の実習生の人数については、12日（90時間）を2回実施したものについては、それぞれの実習先をカウントしており、24日（180時間）1回実施したものについてもそれを1箇所として算出している。

3. 成果と課題

実習に関する報告は、『2008年度 社会福祉実習報告書（めばえ）』（2009年3月刊行）に記している。本学では実習報告書のタイトルは、編集委員を中心にして学生が命名しており、2008年度のタイトルは「めばえ」である。また、3月10日には、社会福祉実習連絡協議会を実施し、学生の実習内容の発表と、実習先の実習担当者と実習担当教員の懇談会を行い2008年度の振り返りと2009年度の実習方法の検討・確認を行った。

今後の課題は、社会福祉士、精神保健福祉士のカリキュラムへの新たな体制づくりを行うことである。

総務・予算委員会

長澤 紀美子

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

- ① 教授会の資料準備及び運営：議題・資料の整理、議事メモの作成等
- ② 高校生見学に対応
平成20年度は、高知県内4校、県外1校が見学を訪れ、学部の説明を行った。
- ③ 学部日常事務の対応
助教および非常勤職員の協力を得て、寄贈資料、手紙の登録、整理、回覧などの仕事に対応した。
- ④ 平成20年度『社会福祉学部報』の編集・発行
平成19（2007）年度（2008年4月発行）を電子媒体（CD-R）として30部作成した。
- ⑤ 学部PR誌『こんにちは、社会福祉学部です。』の改訂版を発行（1200部）
- ⑥ 学部再編チラシ『CHANGE』の発行と配布（3000部）
平成22年度からの学部再編の内容を高校向けに周知するため、教員や学生の協力をえてチラシを作成した。在校生の出身高校や過去の入試志願者の出身高校に配布した。
- ⑦ 国試対策支援ワーキンググループの設置
従来位置づけが不明確のまま助教に依頼していた国試への学習支援について、総務委員会の所掌業務として明確に位置づけた。
- ⑧ 「卒業生動向調査」の実施
実習委員会と共同で、社会福祉士実習の実習指導者の要件の確認等のため、全卒業生に対しアンケートを発送した。
- ⑨ 学部内備品の整備
年次計画で順次更新しているゼミ室のパソコンは、今年度は2台を新規購入した。
- ⑩ 優先度の高い図書配置
学部学生教育費、大学院（M）学生教育費、図書館管理費等により、国家試験対策図書、シリーズ本、福祉関係白書等、DVD・ビデオで教員・学生の研究・教育に資する本を教員の推薦により選び、図書費の有効活用を図った。

2. 成果と課題

今年度の教員研究費は前年度と比較して圧縮された中で、学部共通経費も費用削減が求められた。パソコン等の備品の購入も台数を削減し、助教・非常勤職員の協力により、印刷や消耗品・備品、役務費に掛かる執行を最小限に抑えることができた。

継続的な課題としては、学部共用の備品の整備および管理体制の検討があるが、平成21年度には既存棟の改修と新設棟の工事が完了するため、包括的かつ長期的な視野に立った整備を進めることが必要である。